



半田市市民協働推進計画 評価報告書

令和3年3月
半田市

目次

1	はじめに	1
2	協働アンケート調査結果	2
	(1) 職員アンケート	
	(2) 協働の取り組み課題等調査	
	(3) 自治区アンケート	
	(4) 市民活動団体アンケート	
	(5) 企業アンケート	
	(6) 市民活動助成金アンケート（助成事業実績のある団体）	
	(7) 市民活動助成金アンケート（まちづくりひろば登録団体）	
3	評価	13
4	今後の課題	44
5	市民協働座談会（令和2年12月22日開催）	46
6	委員長提言	60
7	半田市市民協働推進計画評価委員会名簿及び実施経過	62
8	おわりに	63

半田市市民協働推進計画の取組状況について

1 はじめに

平成23年度から令和2年度までの10年間のまちづくりの指針である第6次半田市総合計画では、「次代へつなぐ市民協働都市・はんだ」を将来の都市像として掲げ、支え合いと連携によるまちづくりを進めるために、市民・市民活動団体・事業所・行政が、それぞれの立場や特性を活かしながら、協力して地域課題を解決し、市民ニーズに対応する協働によるまちづくりを推進し定着させ、次の世代に継承される都市をめざしてきました。この協働によるまちづくりを実現するため、平成24年3月には、「みんなでいっしょに大作戦」を合言葉とした半田市市民協働推進計画を策定し、これまでの間に、市民協働の理解、市政情報の積極的な発信、市民活動団体の支援、協働の体制整備など様々な手法により、協働の取組が広がり実を結ぶよう推進してまいりました。

半田市市民協働推進計画は当初、5年間で終結としていましたが、平成28年の計画改定で、一部基本施策を見直し軌道修正するとともに、計画期間を総合計画に合わせ令和2年度まで延長しました。

現在、当初の計画策定から9年が経過し、多様化する市民ニーズへの対応や地域課題の解決のために、市民協働の取組は欠かせないものとなっております。第6次半田市総合計画の終了年度の節目を迎え、今回、有識者、団体代表等で構成した半田市市民協働推進計画評価委員会を開催し、これまでの市民協働の取組について評価・検証を行い、本報告書として取りまとめました。

2 協働アンケート調査結果

これまでの市民協働の取組を評価するにあたり、協働の取組の現状や意向などをより幅広い視点から調査するため、職員、自治区、市民活動団体、企業に各種アンケートを実施しました。

(1) 職員アンケート

◆実施状況

対象：728人（病院職員を除く）

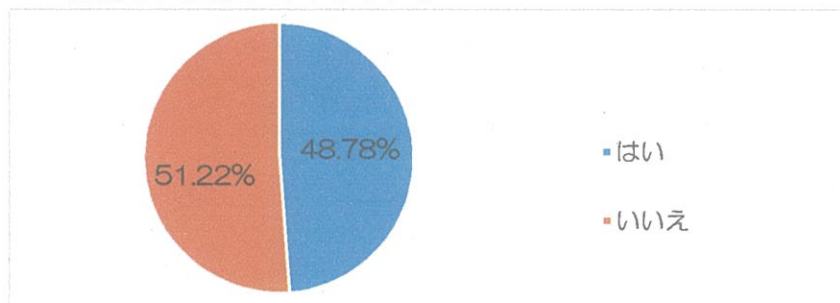
実施方法：電子申請システム

調査内容：協働意識、協働経験、協働のあり方等

回答：246件、回答率：33.8%

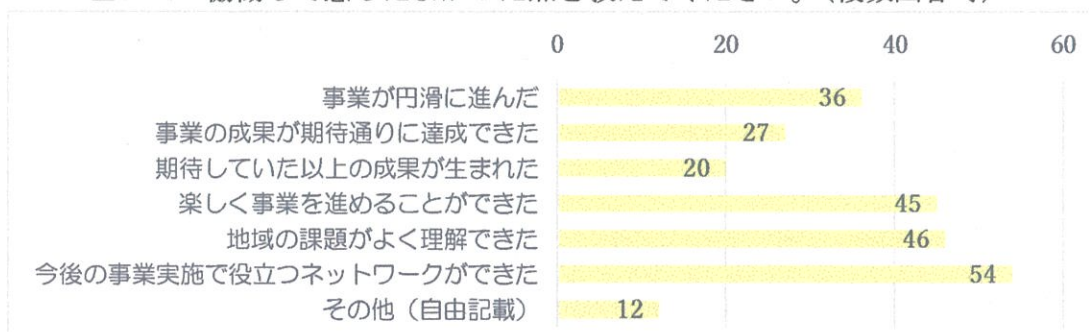
◆結果抜粋

■3-1 これまでに、自治区、NPO・ボランティア団体などの市民活動団体と協働した経験はありますか。



実務経験として協働の取組がある程度、浸透しています。

■3-3 協働して感じたよかった点を教えてください。（複数回答可）



事業自体の成果よりも、協働により得られたつながりを重視している傾向です。

(2) 協働の取り組み課題等調査

◆実施状況

対象：39 課等長

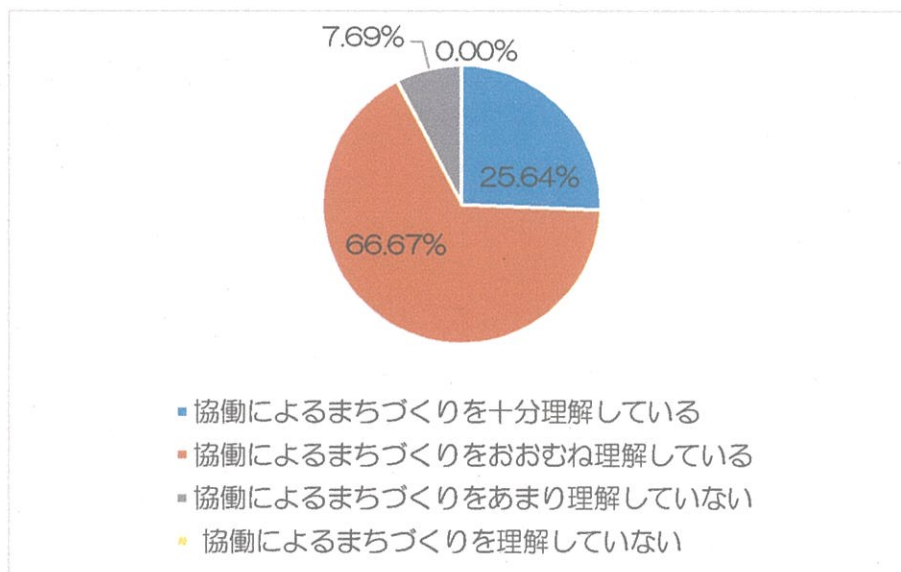
実施方法：システム発送

調査内容：課等職員の協働意識、協働事業実施の成果等

回答：39 件、回答率：100%

◆結果抜粋

■問2 (1) 課等長からみた課等職員の協働意識について



■問3 (1) ⑥ 協働での実施による事業自体の成果について (回答抜粋)

- ・事業ごとに異なるが、単独で実施するよりもきめ細かな対応が可能になる場合が多い。
- ・各団体のノウハウや創意工夫等が、事業自体の魅力向上に繋がっている。

■問3 (1) ③ 協働での実施による職員への波及効果等について (回答抜粋)

- ・地元企業や市民との協働を通じて、幅広い視点で物事を考え、事業を進める姿勢を持つことができている。
- ・市民との協働活動を行うことで、市民のニーズ・感覚を理解することにつながり、行政運営上の視野が広がる。
- ・協働相手方からの意見をもらうことで施策を改善できるようになっている。

(3) 自治区アンケート

◆実施状況

対象：120名（区長及び区長経験者）

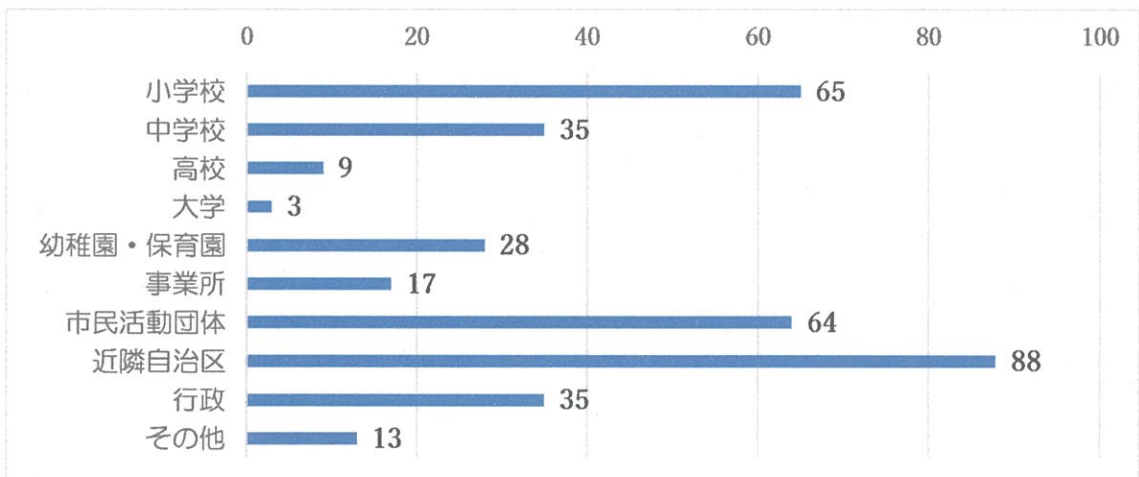
実施方法：郵送

調査内容：地域の協働状況、今後の取組、協働のあり方等

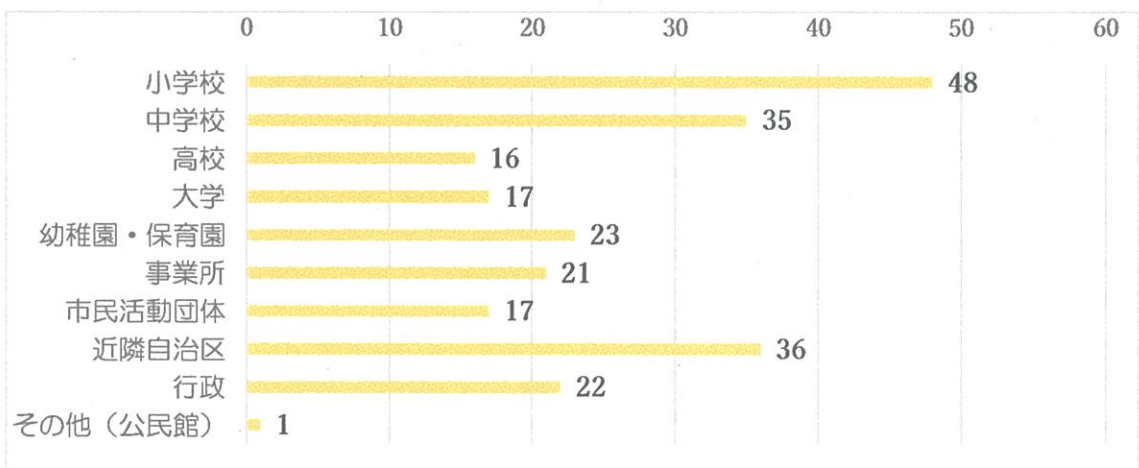
回答：70名、回答率：58.3%

◆結果抜粋

■問5. 自治区で行った行事のうち一緒に取り組んだ団体（複数回答）

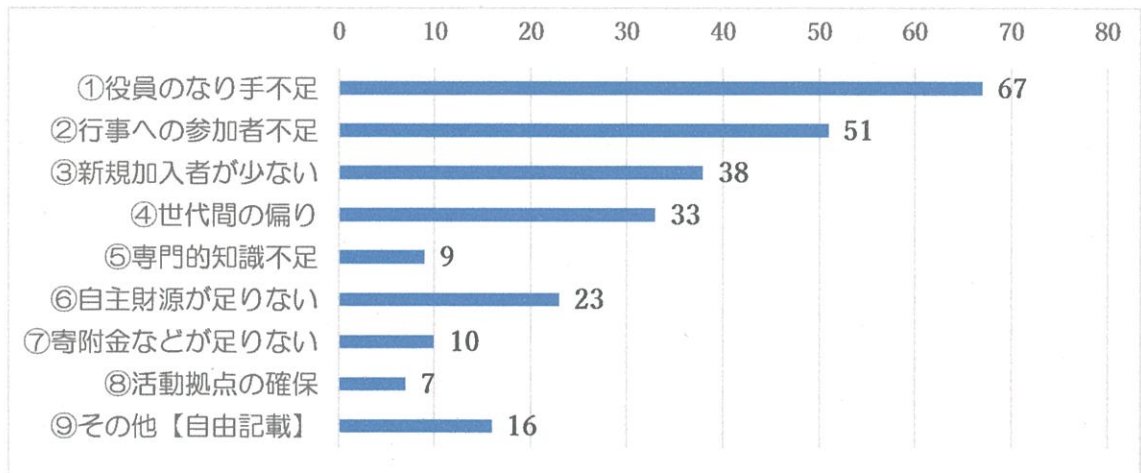


■問7. 自治区で行う行事を一緒に取り組みたい団体（複数回答）



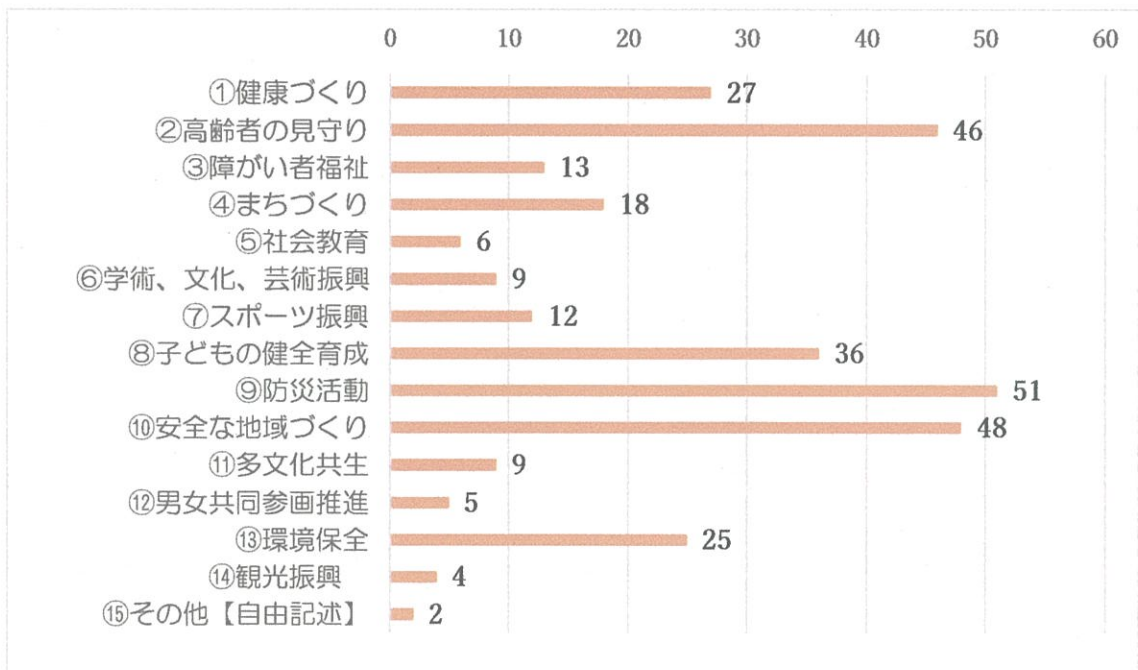
自治区は、地域で顔馴染みの小中学校との行事の協働実施を望む傾向です。

■問 8. 自治区活動において、困っていることについて。(複数回答可)



昨今の定年延長の影響もあり、「役員のなり手不足」が多く選択され、活動維持への危機感が表れています。

■問 10. 自治区が他の団体と協働して、活躍できる分野について。(複数回答可)



防災・防犯や高齢者の見守りの分野において、協力の輪を広げたいと考えています。

(4) 市民活動団体アンケート

◆実施状況

対象：193 団体（まちひろ登録団体）

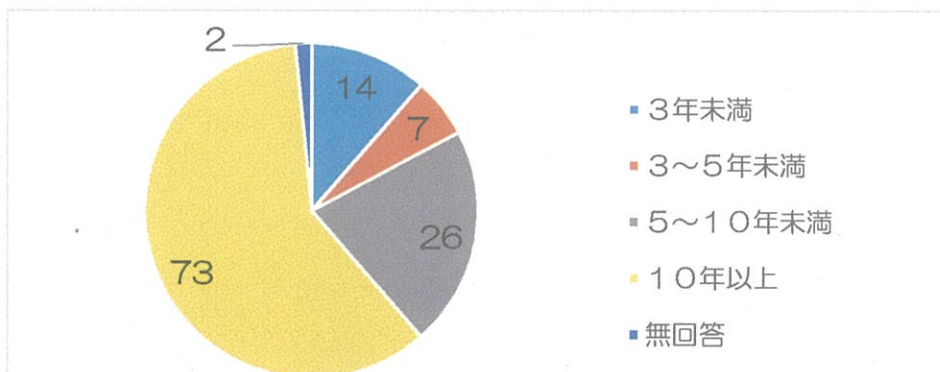
実施方法：メール

調査内容：団体活動情報、協働状況、協働のあり方等

回答：122 団体、回答率：63.2%

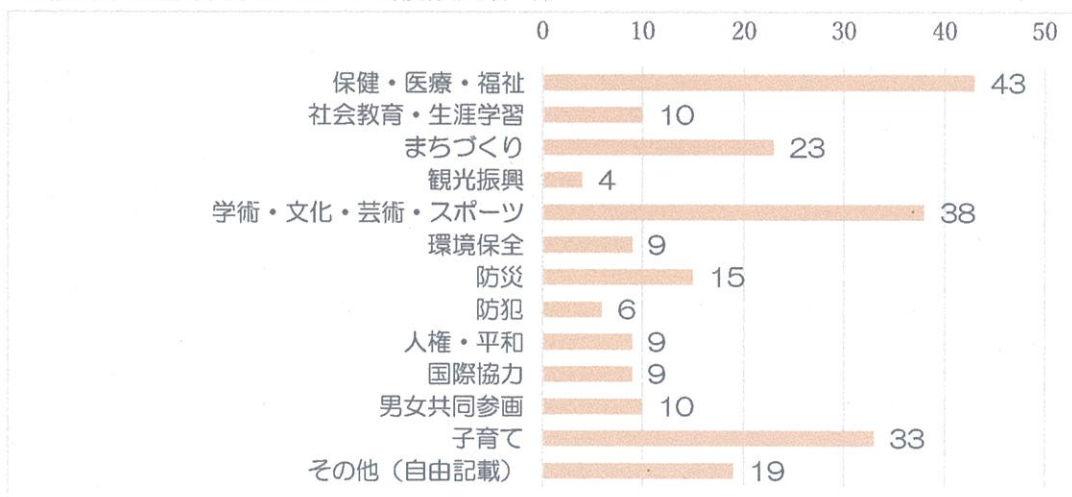
◆結果抜粋

■問 3. 活動年数について



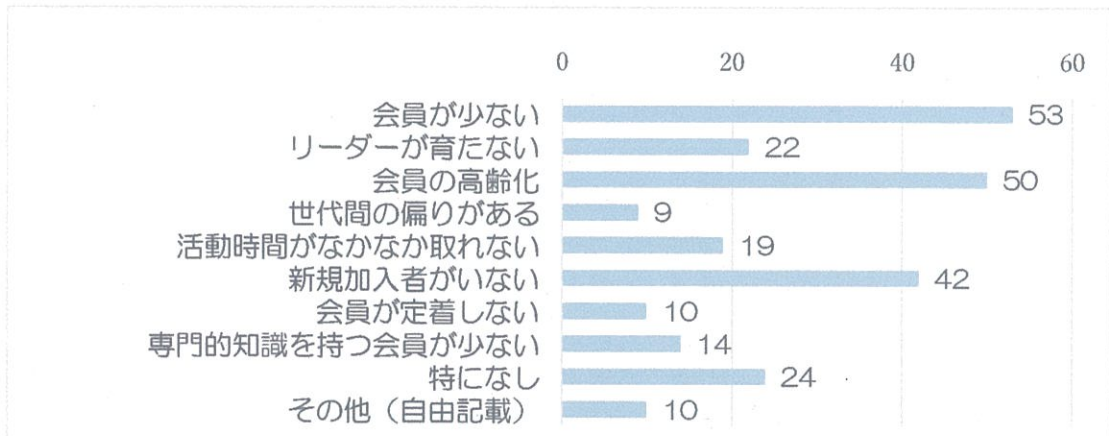
10年以上活動を続けている団体が73団体（約60%）を占めている一方で、設立3年未満の団体も14団体（11%）あります。

■問 8. 活動分野について（複数回答可）



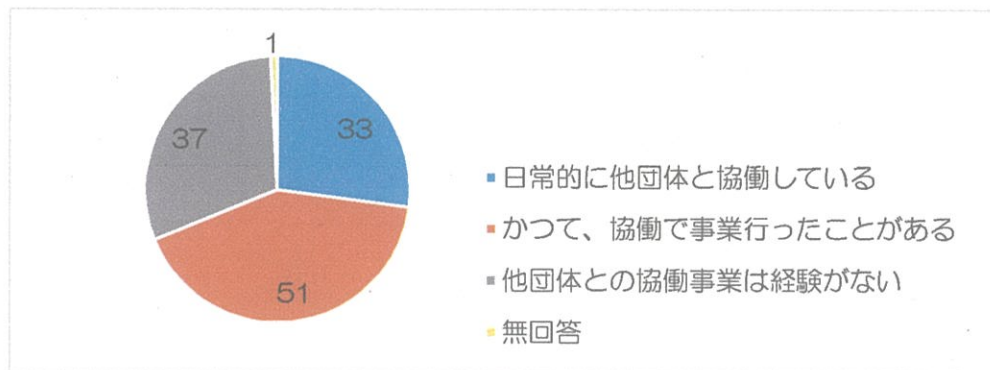
学術・文化・芸術・スポーツ分野が多いのは半田市の特徴です。

■問 14. 人材に関する課題について（複数回答可）

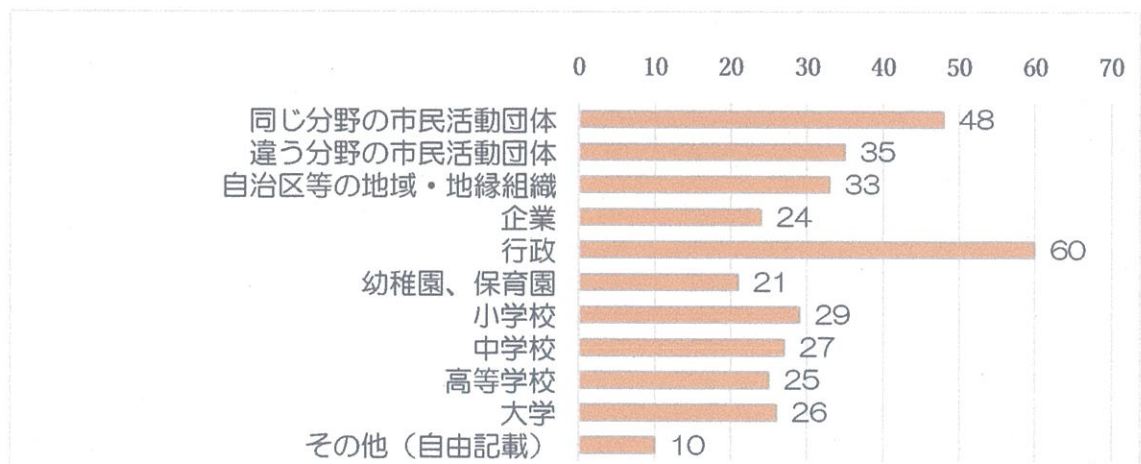


会員の資質よりも組織維持のための会員数や高齢化を課題として捉えています。

■問 18. 団体活動の中で、市や団体等と協働で事業をした経験について



■問 22. 今後の団体活動の中で、市や他団体等と協働の取り組みを希望する場合に、希望する相手方について（複数回答可）



実際に協働した相手方と、今後も協働の取組を希望する傾向がみられます。

(5) 企業アンケート

◆実施状況

対象：595社（商工会議所会員名簿から無作為抽出）

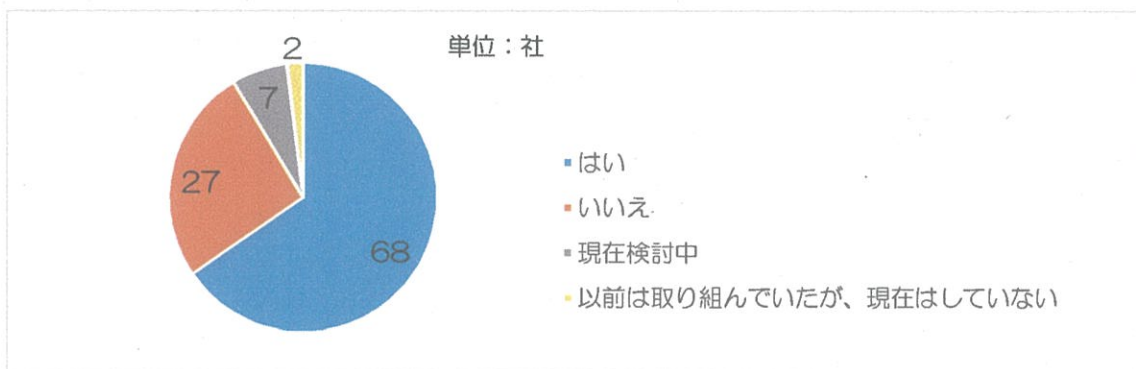
実施方法：FAX

調査内容：社会貢献活動の取組状況、協働のあり方等

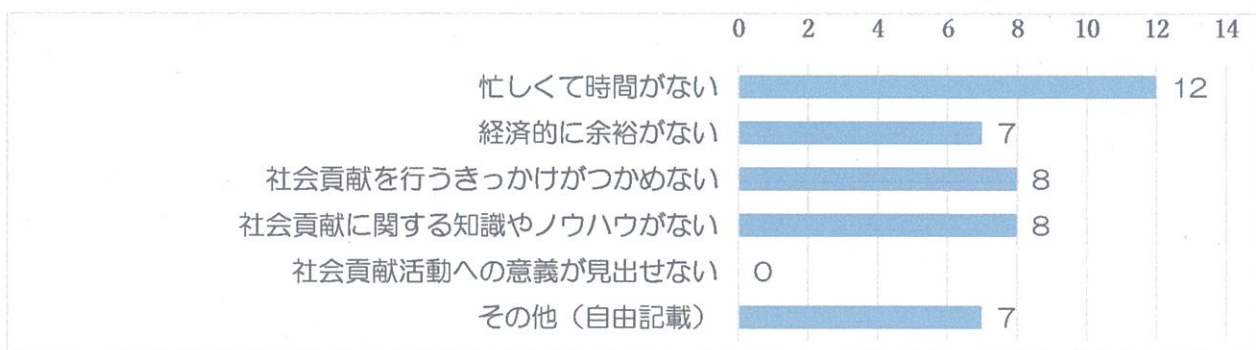
回答：104社、回答率：17.4%

◆結果抜粋

■問4 現在、社会貢献活動に取り組まれていますか

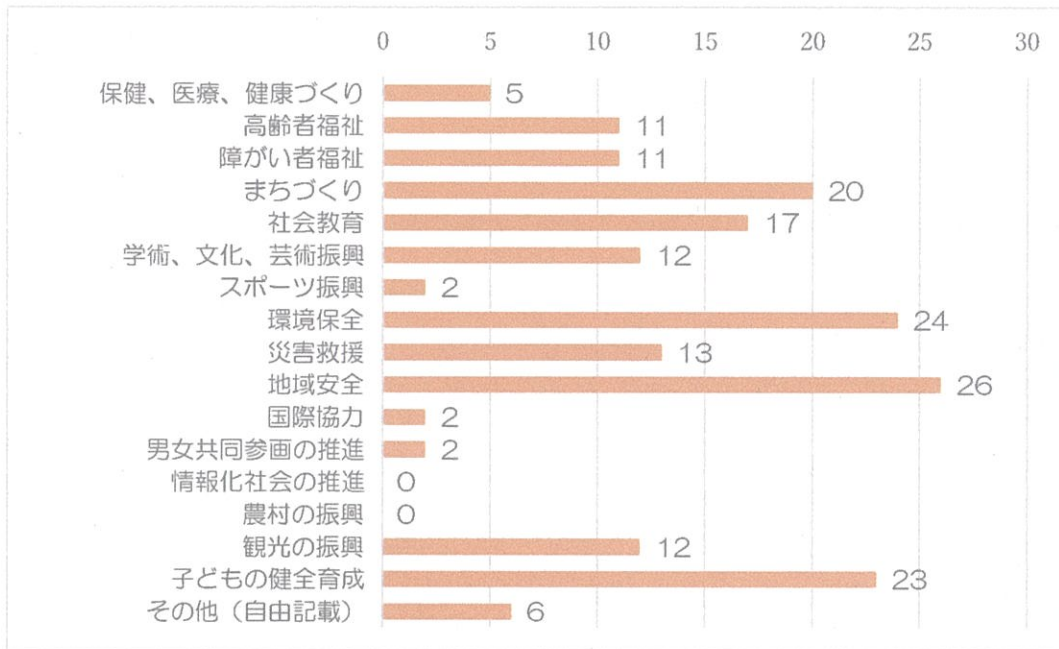


■問8 社会貢献活動について、取り組んでいない場合（検討中を含む）や、以前は取り組んでいたが現在はしていない場合の理由について（複数回答可）

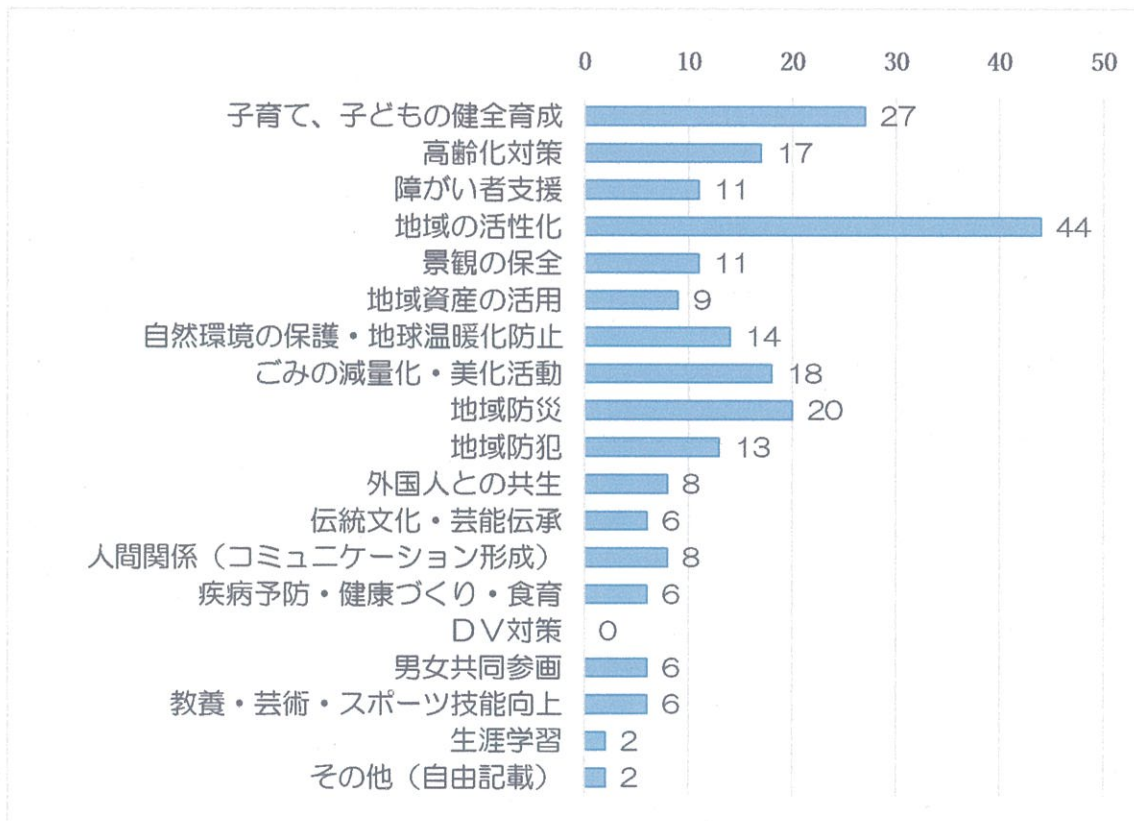


きっかけづくりやノウハウの伝授等により社会貢献活動の潜在的な需要が見込めます。

■問6 社会貢献活動の活動分野について（複数回答可）



■問15 この先協働により取り組みたい事業等について（複数回答可）



(6) 市民活動助成金アンケート（助成事業実績のある団体）

◆実施状況

対象：85 団体 101 事業

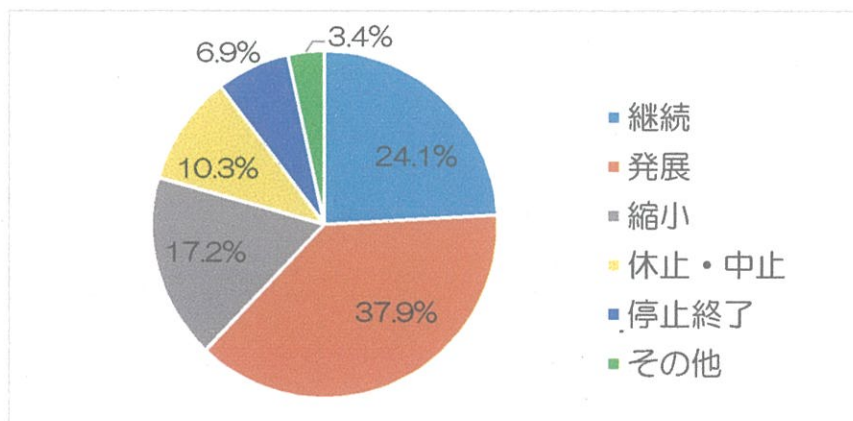
実施方法：郵送

調査内容：助成事業の現状、助成制度のあり方等

回答：58 事業、回答率：57.4%

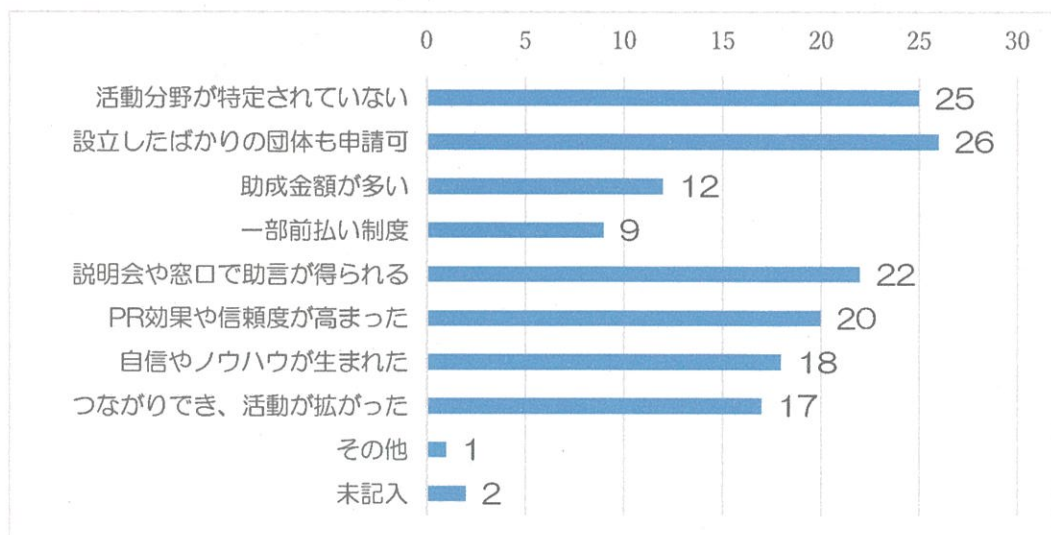
◆結果抜粋

■問 1 - 1 助成事業の現在の状況について



助成を受けた事業の 62.1% は引き続き実施又は発展し実施されています。

■問 4 - 1 助成制度を利用して、よかったと感じる点について(3つまで回答)。



助成制度自体の利点と、助成事業実施による効果の双方で評価が得られています。

(7) 市民活動助成金アンケート（まちひろ登録団体）

◆実施状況

対象：193 団体

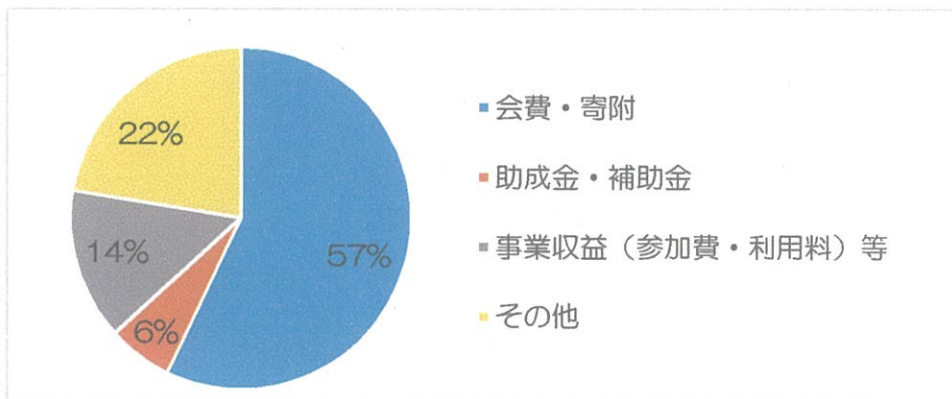
実施方法：郵送

調査内容：助成事業利用状況、助成制度のあり方等

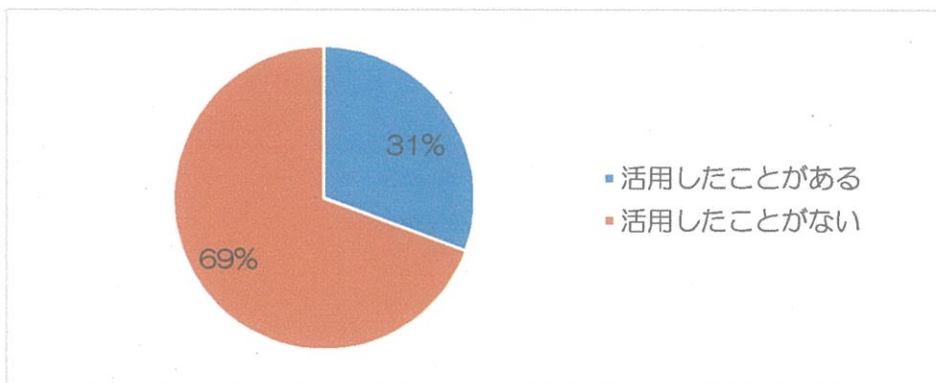
回答：49 団体、回答率：25.4%

◆結果抜粋

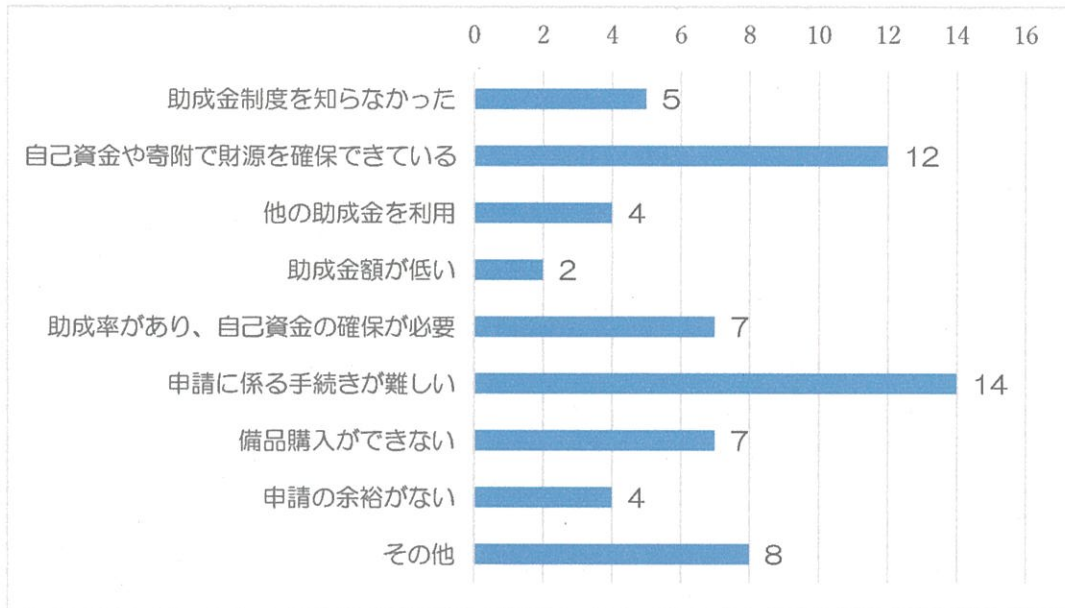
■問1 団体活動における主な資金源について



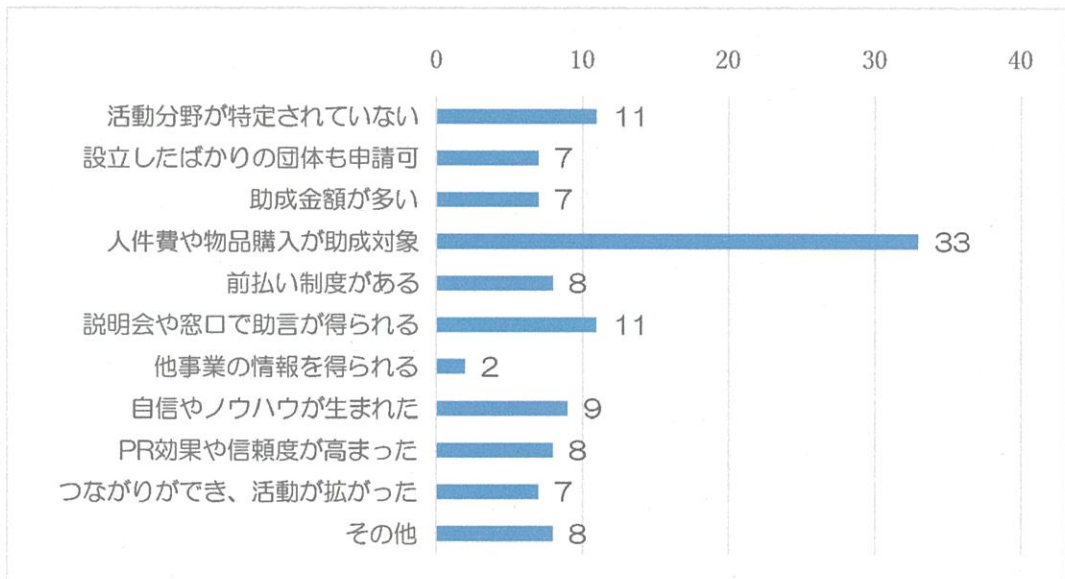
■問2（1） 半田市市民活動助成金を活用した経験について



■問 2 (2) 半田市市民活動助成金を利用しない理由について (3 つまで回答)



■問 3 利用したい助成制度について (3 つまで回答)



問 2、3 の結果から、助成金の申請方法や周知、助成対象についての課題が明確になりました。